統合運用管理ソリューションへの取組

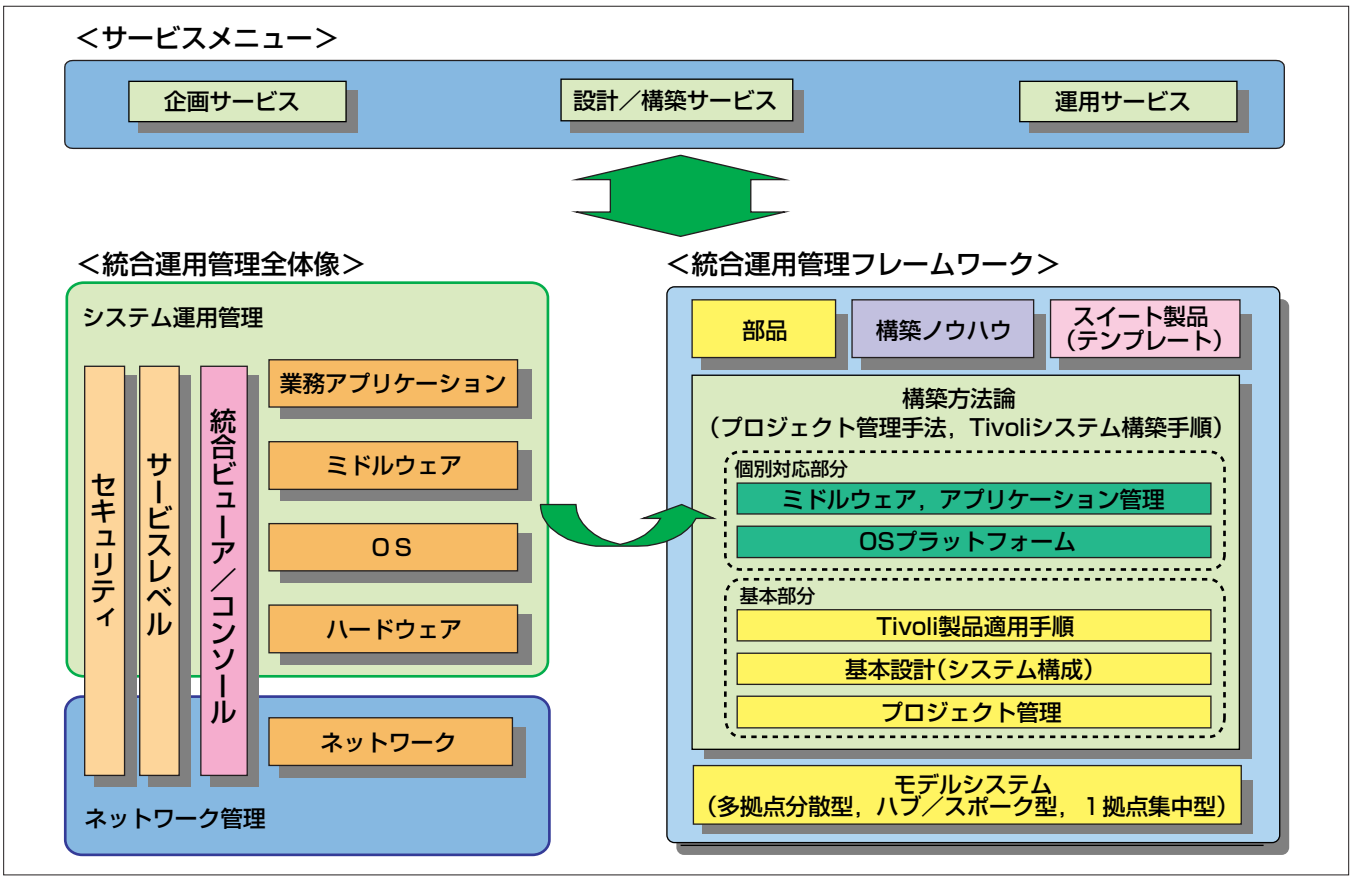
虎渡昌史*
勝山光太郎**
林　博之***

要　旨

コンピュータシステムは，ホスト中心型からクライアント／サーバ型へ，そしてインターネット型へと変遷している。e-ビジネスに代表されるイントラネット／インターネットでのB to B(企業間)，B to C(企業と個人)のシステムでは，インターネットを利用した分散配置されたサーバ群に対して一企業内の運用から企業間にまたがる管理までが必要な時代となっている。このように絶え間なく変化する企業の情報システム環境を管理・維持していくことは，企業の利益と競争力を維持・向上していくための非常に大きな要素である。正に，インターネット時代の急速な変化に対応可能な管理インフラストラクチャの構築が必す(須)の時代である。統合運用管理製品の伸長率が年率40%前後であることもこの裏付けである。

三菱電機(当社)の統合運用管理ソリューションは，従来のような障害検知・対処という受け身のものだけでなく，システム全体を積極的に制御・管理することを目指した統合運用管理システムの構築技術を提供している。この構築技術では，企画から設計／構築，運用までのすべてのフェーズで活用可能なシステム構築の体系化と標準化を行った。まだれい(黎)明期である統合運用管理では，明確な体系化や標準化が確立しておらず，当社が蓄積した多くのシステム構築経験に基づいた技術の積み重ねによってソリューションを作り上げた。

本稿では，運用管理の動向や当社の取組を踏まえ，システム構築に必要な統合運用管理フレームワークについて述べ，また当社の構築事例を紹介する。



統合運用管理ソリューション概念図

当社統合運用管理ソリューションは，顧客に提供するサービス(企画，設計／構築，運用)に対して提供するシステム構築技術(フレームワーク)である。このフレームワークの機能は，統合運用管理を体系化し，システム構築の信頼性強化，構築スピード向上のための構築方法論を標準化したものである。構築方法論は，必要な機能をソフトウェアアーキテクチャやモデルシステムに従って手順を体系化したものである。

*三菱電機㈱情報通信システム開発センター　**同情報技術総合研究所(工博)　***三菱電機インフォメーションシステムズ㈱